

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター（第1回）

プロジェクト正式に開始

ミャンマー国初等教育カリキュラム改訂プロジェクト（第1年次）が、5月23日に動き出しました。支援期間は5年、投入される日本側専門家数はのべ30名、ミャンマー側のカウンターパート総数は60名以上と、これまでの教育支援案件と比較しても破格の大きさとなっています。

JICA では 2001 年から継続してミャンマーの基礎教育の質的向上のために「児童中心型アプローチ：CCA」の導入と定着を目指し、「ミャンマー基礎教育セクター調査」「児童中心型教育強化プロジェクト・フェーズ1」「同フェーズ2」といった教育プロジェクトを実施してきました。本プロジェクトの実施を通して、CCAが教科書という形で全国の学校に届くことが期待されます。

プロジェクトのキック・オフ・ミーティング開催

6月12日（木）に首都ネピドーにてキック・オフ・ミーティングを開催しました。日本側（以下、敬称略）は、JICA 事務所のご担当者、プロジェクト専門家の7名、ミャンマー側は、教育省の Director General、Deputy Director General はじめ、各部局の部局長など10名の出席がありました。本会議では、総括からのプロジェクトの概要説明の後、①カリキュラム・フレームの進捗状況、②カリキュラム開発チーム（以下、CDT）メンバーのアサイン、③教科書編集スタッフのアサイン、④プロジェクト事務所の整備に係る費用負担、などについて話し合われました。



また、上記の会議以外にも、2014年6月25日（水）に CDT メンバー及び教科別委員会（Subject-Wise Committee: SWC）の各教科の座長を対象にした第2回キック・オフ・ミーティングをヤンゴンの基礎教育リソース開発センター（BERDC）において開催し、ミャンマー側の実務レベルのカウンターパートにも本プロジェクトの概要全体についての共通理解を促しました。

カリキュラム・フレームの最終決定はいつ？

教科書を編纂していく上で、その土台となるカリキュラム・フレーム（ここでは教育の目的、習得を目指す能力、教科科目構成、各配当時間数などを明記したものを指します）が、2014年6月25日現時点で残念ながらまだ決定していません。当初、ミャンマー側は本年3月末を目途に決定する計画でしたが、その計画がかなり遅れています。現在、カリキュラム・フレーム（案）は出来ていますが、その内容を CDT メンバーの中で議論し、彼らのアイデアを入れたものを教科別委員会（SWC）で再議論し、そこで決定されたものを基礎教育カリキュラム・シラバス・教科書委員会（Basic Education Curriculum, Syllabus and Textbook Committee: BECSTC）に提出し、最終承認を得るといった工程が必要となります。

CDT による教科書編纂作業の状況

カリキュラム・フレームが決定していない状況の下、この最終決定を待っている教科書編纂作業ができないため、各教科の CDT は本プロジェクトの開始と同時に、早速、教科書編纂作業を始めました。



具体的な作業手順としては、①教科書の目標、学年毎で扱う内容を検討（2014年6月末まで）、②最初の2～3単元について教科書サンプルを作成（2014年8月中旬まで）、③教科書のページ数・各ページの単元名を決定（2014年9月中旬まで）、という順番で進めていくことでCDTと合意しています。

印刷技術調査の実施

印刷技術専門家により2014年6月17日～20日にかけてミャンマーの教科書印刷会社の調査が行われました。この調査の目的は、現行のミャンマーの教科書の印刷の質が悪いことは周知の事実ですが、今後、新しい教科書を編纂していく上で、ミャンマー国内で印刷するという前提で、どのくらいの質をもった教科書の印刷が可能かをある程度明確にし、教科書編纂の具体的な方針を決定していくというものです。詳細な調査結果は上記専門家の報告書を待ちたいと思いますが、国営印刷企業（Printing and Publishing Enterprise: PPE、これまでミャンマー教科書はすべてここで印刷されていた）では印刷機材の問題から教科書の質についてはかなり妥協しなければならないという印象をもちました。他方、民間印刷業者については、最新の機材を備え、日本の教科書レベルの印刷も可能という話をお聞きしています。今後、できるだけ早期に、教育省の印刷方針や印刷予算も併せて教科書の印刷方針を決定していく必要があると考えています。



ミャンマー側教科書編集スタッフの決定

教科書を編纂していく際に、その内容もさることながら、教科書の紙面の編集は非常に重要なものです。日本側は早くからミャンマー側の編集技術者をプロジェクトに参加させてもらうように依頼していましたが、教育省の人材不足に加え、コンピュータなどの機材を使いこなせる人材が少ないということでなかなかスタッフの人選が進んでいませんでした。しかしながら、本プロジェクト開始と同時に、日本側が再度強くミャンマー側に要請したことから、今月6月末ようやく教科書編集スタッフが選定され、正式にプロジェクトのカウンターパートとしてアサインされることになりました。

教科書編集スタッフは全員で12名、うちCDTから9名（国語、算数、理科、社会、英語、体育、芸術、ライフスキルから1～2名）、その他3名は教育省から新たにアサインされる人材です。この教科書編集スタッフは、今後、教科書編集専門家とともに共同で業務を進めていくことになります。また、教科書編集スタッフとは言いながら、彼ら12名は教科書を編集した経験はほとんどないため、編集知識と技術を習得することを目的に本邦研修に参加していただく予定です。この研修は、現段階では10月中旬から下旬の2週間程度で準備をしているところです。

以上